

宇佐市民図書館 2002.12

郷土スペース月報

〒879-0453 大分県宇佐市上田1017-1 TEL.0978-33-4600 FAX.0978-33-4679
<http://www.usa-public-library.jp/>

◆ 今月の表紙・横光利一の講演原稿(二枚目)

次

- ◆ 講演草稿(我等と日本) / 横光利一
- ◆ 龍膽・小野精一編「大分県人名辞典」本文編(7)
- ◆ 新着郷土資料目録・平成十四(二〇〇二)年【11月】

今日はフランスに於ける、最も高い精神生活を代表せられる皆さんに接し得られた事は、私の深く光栄とする所でありませす。

あ、あ、あ日本人は、ここ五十年の間、フランスから優れた物的及び精神的の諸々のものを学びました。しかし、常に、ある一点の飽和点に達すると、不思議に、フランスに対して沈黙を守らねばならなくなる。さうして、この沈黙の間に、フランスに代つて、漸次にわれわれの精神に侵入して来たものは、ロシアである。

この歴史はここ三十年の間に、三度の繰り返しを行つた。最初は、ロシアからツルゲーネフ、トルストイ、ドストエフスキイが這入つて来た。それ

4 2 1 1

今月の表紙 昭和11年7月9日、巴里ボルザ万国知的協力委員会での講演草稿。横光家旧蔵資料。宇佐市所蔵(三和文庫)。昭和14年4月26日発行『考へる葦』(創元社)に「我等と日本」と題されて収録。ただし、多少語句の異同がみられる。『定本横光利一全集』第13巻(河出書房新社)に収録。要旨は昭和13年5月1日発行、『セルパン』第88号に掲載され、『定本横光利一全集』では第15巻「講演=参考」に収録。

講演草稿(我等と日本)

横光利一

今日はフランスに於ける、最も高い精神生活を代表せられる皆さんに接し得られた事は、私の深く光栄とする所でありませす。

われわれ日本人は、ここ五十年の間、フランスから優れた物的及び精神的の諸々のものを学びました。しかし、常に、ある一点の飽和点に達すると、不思議に、フランスに対して沈黙を守らねばならなくなる。さうして、この沈黙の間に、フランスに代つて、漸次にわれわれの精神に侵入して来たものは、ロシアである。

この歴史はここ三十年の間に、三度の繰り返しを行つた。最初は、ロシアからツルゲーネフ、トルストイ、ドストエフスキイが這入つて来た。それにつづいて、……

龍膽・小野精一編 大分県人名辞典 本文編(7)

遺族から宇佐市に寄託された自筆原稿より、本文を順次紹介しています。

収録人名一覧は、No.7(2000.10)～No.14(2002.5)に連載しました。

あそ

あそじま・けいほんに

麻生島圭本尼

(生没年未詳)

宇佐の人。麻生貞政の女。何かの縁で仏道に帰依し、圭本尼と称していた。両親の為めか、亡き夫の為めか、菩提の為に祈願して宇佐の呉橋の下を流るる寄藻川の大尾山の麓に井堰を築き、井路を開き、灌漑の便を計って成功した。其井手溝の岩壁に次ぎの文字が刻してあったので、其うるわしい功業が世に伝わった。

麻生島貞政の娘……源溜圭本

尼……為菩提此井手堀切 寛

文十二年三月二日

とあったのに、其井手溝が大正五年に参宮鉄道の出来たとき壊されたので新に碑を建て、更に右

の文字の外に、上文元鑄渠側為鉄道工事埋没因更刻石建之……大正五年一月

あだち・しゅうえい 足立秋英

(一八二五～一八九五)

文政八年、杵築藩士源左衛門祐広の子に生る。幼名国太郎。諱祐之。字子英。藩主松平親良より秀英の名を賜わったが、憚って秋英と称した。号臥雲軒又純々石ともある。画を田辺文琦、十市石谷に学ぶ。江戸に赴き命により狩野探幽に師事したが、好んで光琳派の池田三信に学んだ。又茶道を石州流宗家浜野淳々庵に学び、茶博士の称さえ与えられた。廃藩の際、大楽源太郎姫島に抛つて騒がしたので、藩知事の命にて姫島に赴き、八ヶ年間姫島戸長を勤めた。明治十一年、杵築に帰り、奈狩江村に池を掘り、池畔に住んでい

つねはきし 太刀をとがまにとりかへて

草かる身とはなりにけるかな

爾来、不如意。明治二十八年、歳七十一で歿した。

秋英、孝心深く、歳二十頃、父母同時に病あり、孝養怠らず。泥鰌を漁して大きい鰌すっぽんを得た時、人二十四孝の孟宗に比したという。藩公もその孝行を賞し、小姓に援擢した其時、

うれしさの甲斐なきものは

父母のなきよの後の

榮なりけり

又小串邦太等と尊皇開国を唱えた。鳥羽伏見の戦に幕名により杵築藩に出兵を命じた。藩主親良之を臣下に謀った。一座寂として声なき時、秋英独り大義を説き、出兵の不可を論じて藩主大に怒り、刀を取っ

て立った。秋英、自若として「臣は小義を捨て大義に就く。御手討は光榮の至り」といつて動かなかつた。重臣の諫止で事は済んだが出兵も見合せとなった。

明治十年、西南の役、中津隊が県庁に迫ると、姫島にあった秋英は漁舟に六丁の櫓を立て、大波を乗り切つて下関の官軍に急叛したので、陸軍省より賞状を授った。(偉人伝)

あだちはんせん 安達半仙

画人。臼杵の人。丹洲の弟。初め児玉蘆香に画を学び、南画を善くす。通称二平。名盛保。字如痴。号半仙。別に此君亭、梧竹山房とも号した。書画を商い、生業としていた。

あだちふつこ 安達復古

神官、歌人。鶴崎の人。名武五

郎。号復古。明治二年、神祇官権少吏に任ず。竹田と親交あり。文政五年、竹田の黄築紀行に鶴崎の復古を訪い、一夕相語つた記事がある。明治中歿。(大塚調)

あとだ・なおかず 跡田直一

(一八七〇～?)

下毛郡上津村の人。明治三年生。父善策。大分中学出身。家運転回を志し、十八歳、郷土を辞し、大坂に留まる二年、東京に出て法学院に入ったが、学資乏しく中途退学し、鉄道省に入った。三十七、八年は北海道で鉄道敷設に従事した。鉄道が国有となると東京に帰り、鉄道庁に入つて三年、名古屋運輸事務所長となつて赴任した。それから大正五年に至つて名古屋電気鉄道株式会社支配人となつたが、名古屋鉄道株式会社となつて、其常務となつた。(言行録)

あないろくろえもん

穴井六郎右衛門

日田の義民。岡田庄太夫日田郡代として着任するや、重税を課す。農民負担に耐えぬ。流離散亡するものが多かった。馬原村里正、穴井六郎右衛門、各里正と謀り人民窮状を申立て減租を歎願した。郡代之を却下するのみならず収斂至らざるなしである。穴井等強訴の意を決し十一ヶ条を掲げ岡田代官に訴えんことを各里正に謀つたが、不賛同志五十七ヶ村、穴井と進退に共せんと誓つたもの十五名主と計り、強訴状を作し、所有田地を売つて訴訟費を作り、延享二年十二月、家事を長男用助(清原祐康)に托し、馬原村組頭飯田惣治と脱出して、三年正月江戸に着し、訴状を幕府評定所に提出した。然るに二人暫く獄に投ぜら

れたが訴状は評定所の聴許となり、やがて出獄された。兩人悦び帰国せんとした。幕吏時機を見て帰国するの安全を説きしも聞かず、同年十二月、帰国し、強訴の成功を発表したので、同盟者の里正の中には禍の及ばんことを恐れ、之を岡田代官に密告したので、二人は代官所に捕われ、浄明寺川原にて斬罪に処せられ、鼻せられ、同盟者百七十三人追放所私等に処せられ、強訴した十五村の人民には百文の過料を課せられた。二人の骸は今の三花村龍泉寺に埋め、墓碑今猶存し、香花絶えずと。(郡誌)

バックナンバーは、
中央カウンター(そくだん)
で、さしあげます。

新着郷土資料目録 平成14(2002)年【11月】

書名／人名／出版社／出版年(月)／請求記号／(備考)

宇佐市民図書館要覧 平成14(2002)年度／宇佐市民図書館／2002.11／A010ウ

野依秀市全集 第1巻(皇室と天皇)／野依秀市／実業之世界社／1959.9／A080／(保管転換)

菅原道真と太宰府天満宮 上巻／太宰府天満宮文化研究所／吉川弘文館／1975／A175タ／(山本文庫)

菅原道真と太宰府天満宮 下巻／太宰府天満宮文化研究所／吉川弘文館／1975／A175タ／(山本文庫)

古代朝鮮文化を考える 第1号／大分県の中の古代朝鮮文化を考える会／1986／A203オ／(寄贈・複本)

知ってるつもり? 小藩分立 ～ハラハラだけどつながっている～

／大分県立先哲史料館／2002.10／A205オ／(寄贈)

古代筑紫文化の謎 万葉と古代九州／筑紫豊／新人物往来社／1974.5／A299.1／(購入)

創立百周年記念誌／宇佐市立豊川小学校／2000／A372.1ト／(寄贈・複本)

ワールド ステーション(内地留学編・2001～2002)／黒田修司／2002.3／A374.3ウ／(寄贈)

職場体験学習報告書 第1回／宇佐市立西部中学校／(社)宇佐高田法人会／1999／A375ナ／(寄贈)

職場体験学習99／宇佐市立長洲中学校／(社)宇佐高田法人会／1999／A375ナ／(寄贈)

四極(臨時増刊号)／四極会／2002.12／A377シ／(寄贈)

大分県公民館大会 第60回／大分県公民館連合会／1999.10／A379オ／(寄贈)

臼杵石仏地域の民俗／臼杵市教育委員会／1978／A382.5ウ／(保管転換・複本)

宇佐市中心市街地活性化基本計画／宇佐市／2002.11／A518ウ／(寄贈)

宇佐市中心市街地活性化基本計画 概要版／宇佐市／2002.11／A518ウ／(寄贈)

美味求真 第1巻／木下謙次郎／五月書房／1997.4／A596キ／(購入)

美味求真 第2巻／木下謙次郎／五月書房／1997.6／A596キ／(購入)

美味求真 第3巻／木下謙次郎／五月書房／1997.10／A596キ／(購入)

大分県立芸術会館紀要 第1号／大分県立芸術会館／2002.9／A700オ／(寄贈)

航跡33 2002年11月15日発行／「航跡」グループ／2002.11／A905コ／(寄贈)

嘉村磯多ノート／多田みちよ／多田みちよ／2002.11／A910カ／(寄贈)

指揮官たちの特攻／城山三郎／新潮社／2001.8／913.6シ／(寄贈・複本)